

佐賀県景気動向指数

令和3年2月26日
政策部統計分析課

1 令和2年12月の動向

- ◆ 先行指数 **80.0%** …… 5か月連続で50%を上回った。
- ◆ 一致指数 **85.7%** …… 3か月連続で50%を上回った。
- ◆ 遅行指数 **66.7%** …… 19か月振りに50%を上回った。

〈個別指標の動向〉

	+ となった指標		- となった指標		保ち合い(O)	
《先行系列》 採用系列数 10 拡張系列数 8.0 指数 80.0	所定外労働時間数	6か月連続	銀行貸出残高(☆)	10か月振り	企業倒産件数(逆)	-
	新規求人数	6か月連続			手形交換金額(☆)	-
	鉱工業生産指数(生産財)	5か月連続				
	乗用車新車登録台数	6か月連続				
	鉱工業在庫率(生産財・逆)	5か月連続				
	新設住宅着工戸数	2か月振り				
	不渡手形金額(逆)	2か月連続				
《一致系列》 採用系列数 7 拡張系列数 6.0 指数 85.7	有効求人倍率(就業地別)	2か月連続	着工建築物床面積(産業用)	3か月連続		
	就職率	3か月連続				
	鉱工業生産指数(総合)	3か月連続				
	鉱工業出荷指数(総合)	3か月連続				
	大型店売上高(☆)	3か月連続				
	輸入総額(唐津港+伊万里港)	2か月連続				
《遅行系列》 採用系列数 6 拡張系列数 4.0 指数 66.7	常用雇用指数	3か月連続	消費者物価指数(☆)	4か月連続		
	雇用保険受給実人員(逆)	2か月振り	銀行預貸率	4か月連続		
	陶磁器生産重量	3か月連続				
	鉱工業在庫指数(総合)	5か月振り				

(逆)は逆サイクルを示す。

(☆)は対前年同月比で、その他はセンサス局法により季節調整を行っている。

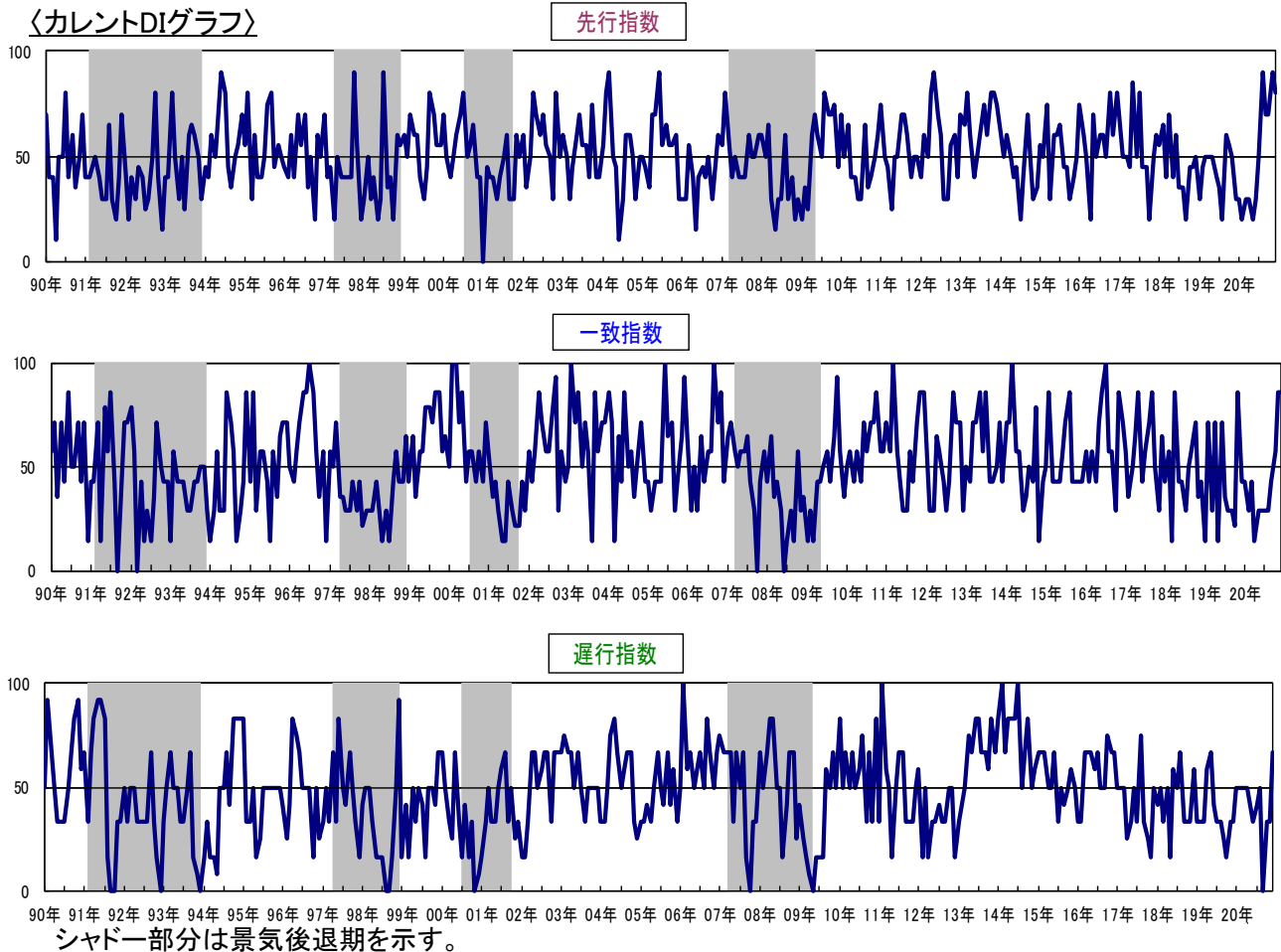
(注)・センサス局法X-12-ARIMAで季節調整をしている指標についてはデータを追加するたびに季節調整要因が変更されるため、
 遡及して数値が変わり変化方向が変わることがあります。

・鉱工業指数など一部の指標は補正を行うことから、同様に遡及して数値が変わることがあります。

・有効求人倍率は、H26年5月分公表から遡及して、「一般職業紹介状況」(厚生労働省)より、「就業地別(季節調整値)」を使用しています。

(注)令和2年5月分において、基準年以降の全期間で季節調整替を行ったため、一部変化方向が変わっています。

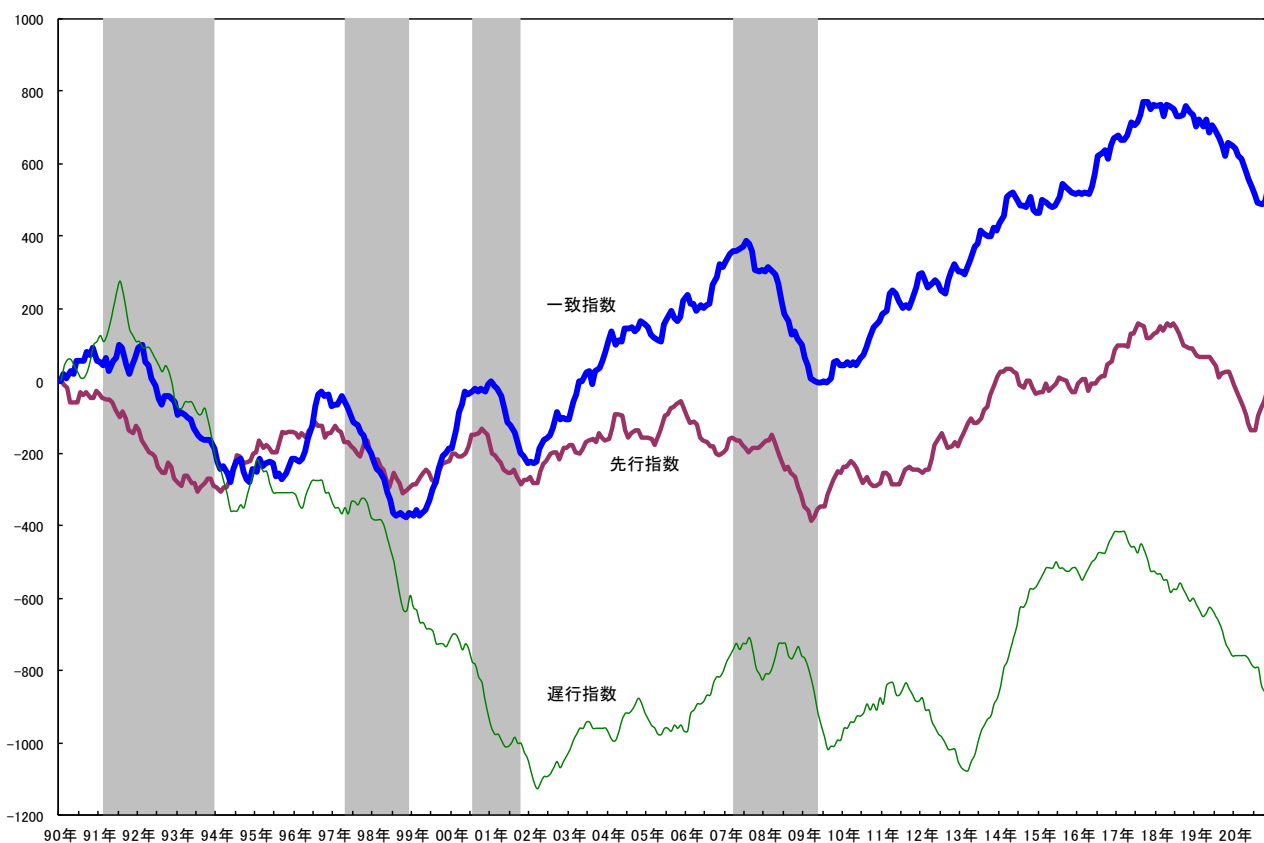
3 佐賀県DIのグラフ



景気動向指数(DI:Diffusion Index)の見方

- ★ DIは、景気の動きを各種の指標によって総合的にとらえようとするもので、各系列で採用指標のうち3か月前と比較して増加している系列(+)が何%を占めているかを表したものです。
各系列において、指数の計算方法は次式によります。
指数 = (「+」の指標数 + 0.5 × 保ち合い「0」の指標数) ÷ 当該採用指標数 × 100
- ★ DIには3つの指標があり、それぞれ下記のような特徴があります。
 - 「先行指数」・・・ 景気に対し先行して動き、景気の先行きを予測する。
 - 「一致指数」・・・ 景気に対しほぼ一致して動き、景気の状態を示す。
 - 「遅行指数」・・・ 景気に対し遅れて動き、景気の動きを確認する。
- ★ 一致指数が基調的に50%を上回って推移している時期は景気拡張期、50%を下回って推移している時期は景気後退期と判断します。
なお、値そのものの大きさは景気変動の大きさないし振幅を示すものではありません。
- ★ DIは不規則な動きをすることが多いので、基調的な動きは累積DIのグラフで見ると分かりやすくなります。

〈累積DIグラフ〉



※ シャドー部分は景気後退期を示す。
 今月の累積DI=先月の累積DI+(今月のDI-50)

4 佐賀県の景気基準日付

谷	山	谷	期 間		
			拡張	後退	全循環
-	S48年12月	S50年5月	-	17ヵ月	-
S50年5月	S52年1月	S53年1月	20ヵ月	12ヵ月	32ヵ月
S53年1月	S55年2月	S57年12月	25ヵ月	34ヵ月	59ヵ月
S57年12月	S60年5月	S61年11月	29ヵ月	18ヵ月	47ヵ月
S61年11月	H3年1月	H5年12月	50ヵ月	35ヵ月	85ヵ月
H5年12月	H9年3月	H10年12月	39ヵ月	21ヵ月	60ヵ月
H10年12月	H12年6月	H13年10月	18ヵ月	16ヵ月	34ヵ月
H13年10月	H19年2月	H21年5月	64ヵ月	27ヵ月	91ヵ月
H21年5月					